

第76回 大腸癌研究会ガイドライン委員会 議事録（案）

日時 平成24年1月19日（木）10:00～11:00

場所 栃木県総合文化センター 第3会議室

司会：渡邊聡明

（敬称略・順不同）

出席者：島田安博、板橋道朗、田中信治、固武健二郎、伊藤芳紀、味岡洋一、五十嵐正広、石黒めぐみ、石田秀行、斎藤豊、大倉康男、濱口哲弥、金光幸秀、坂井義治、長谷川傑、落合淳志、望月英隆、上野秀樹、中島健、小川真平、廣澤知一郎、杉原健一、渡邊聡明

欠席者：小口正彦、兵頭一之介、室圭、吉野孝之、國土典宏

1. 開会挨拶（渡邊）

2. ガイドライン2010年版（渡邊）

- 1) 日本癌治療学会ホームページ「がん診療ガイドライン」へのアクセス数調査結果（2011年9月）において、大腸癌治療ガイドラインが乳がん（トップページ）に次いで2番目（ガイドライン）、3番目（トップページ）にアクセス数が多いことが報告された。前者は、2010年の5位から2位へと大幅に上昇した。
- 2) 大腸癌治療ガイドライン（医師用2010年版）に関するアンケートを大腸癌研究会ホームページで実施中である。1月16日現在96件の回答が集まっている。

3. オキサリプラチン（エルプラッド）添付文書の変更（渡邊）

オキサリプラチン添付文書が変更になった。島田委員の協力のもと意見を集約し、まもなく大腸癌研究会ホームページに掲載する予定である。

4. CQ案に対する意見収集結果（渡邊）

大腸癌研究会ホームページで「大腸癌治療ガイドライン改訂ークリニカルクエスチョン（CQ）の変更（案）についてー」の意見募集を行った結果、以下の意見が寄せられた。

- 1) CQ6「直腸癌局所再発に対する外科治療」に挙げられた参考文献の適否について。
 - 2) 直腸癌の手術治療としての局所切除の記載にMITASとTEMを加える。
- 以上2点につき、改訂作業時に検討を行うこととなった。（板橋委員）

5. CQの本文への移動について（渡邊）

CQ案作成にあたって本文への移動が適当と認められる場合、その時点で再度検討し、CQ案を公開、最終の公聴会でその旨を説明することに決定した。

6. ガイドライン英語版（渡邊）
IJC0 誌に大腸癌治療ガイドライン（医師用 2010 年版）の英語版が掲載される予定である。
7. ガイドライン電子版（渡邊）
大腸癌治療ガイドライン（医師用 2010 年版）の電子版が発売された（2011 年 11 月）。現在、30 部程度販売済みである。
8. ガイドライン解説（渡邊）
「大腸癌治療ガイドラインの解説 2009 年版」の改訂を、山口明夫先生（福井大学）を委員長として進めることに決定した。内容は現在改訂作業中のガイドラインに対する解説とし、出版も 2013 年～14 年の同時期とすることとなった。
9. 遺伝性大腸癌診療ガイドライン（案）（渡邊）
遺伝性大腸癌診療ガイドライン（案）を大腸癌研究会ホームページに掲載済みである。明日 20 日の研究集会で公聴会を開催する（岩間委員）。今後の予定としては、評価委員会からの指摘に家族性大腸癌委員会が対応したあと、3 月末までに入稿、第 77 回大腸癌研究会（7 月 6 日）までに出版することに決定した。
10. 今後のガイドライン改訂作業（渡邊）
- | | |
|-----------|--|
| 2012 年 | 最終 CQ 確定
系統的・網羅的文献検索開始（約 700 円/1 文献） |
| 2012-13 年 | 本文作成と推奨文・推奨度の決定 |
| 2013 年 | 公聴会開催〔研究会〕とホームページでのドラフト版の掲載
会員からの意見募集 |
| 2013-14 年 | 最終的な内容の加筆修正、発刊 |
11. 診療動向アンケート（渡邊）
大腸癌研究会施設代表者全員に対し、石黒委員を中心に D3 の普及率がどのくらい時代的に変化しているのかなどに関するアンケート調査を行うことに決定した。
12. その他
石原聡一郎先生（帝京大学）を委員として迎えることに決定した。

予定時間の終了に伴い、閉会。

以上